

アーサー・R・マーシャル ロクサハッチー国立鳥獣保護区域

目的

エバークレーズの北端にあたるこの地域は 1951 年に国立鳥獣保護区域として指定されました。全長57マイル（約90キロメートル）の堤防に囲まれたこの区域の総面積は約146,000エーカー（59,000ヘクタール）に及び、堤防の内側には深さ約4.6メートルの運河が流れています。「ロクサハッチー」はセミノール・インディアンの言葉で「亀の川」という意味です。この土地はUSFWSがフロリダ州より賃貸し管理しています。絶滅に瀕する動植物や渡り鳥の保護、エバークレーズ北端のユニークな野性動植物の生息地の維持、そして自然と調和のとれた教育・レクリエーション施設を提供し管理することを目的としています。

自然史

エバークレーズ北端にあたるこの淡水湿地帯は5,000年程前に形成されました。地盤となる石灰岩はピート（泥炭）で覆われ、そのピートの厚さは場所によっては12フィート（3.66メートル）にも及びます。この保護区域の地下にある大きな自然透水路は隣接する沿岸都市の水源となっています。このエバークレーズ北端地域には大きく分けて次の四つの植物群落があります。

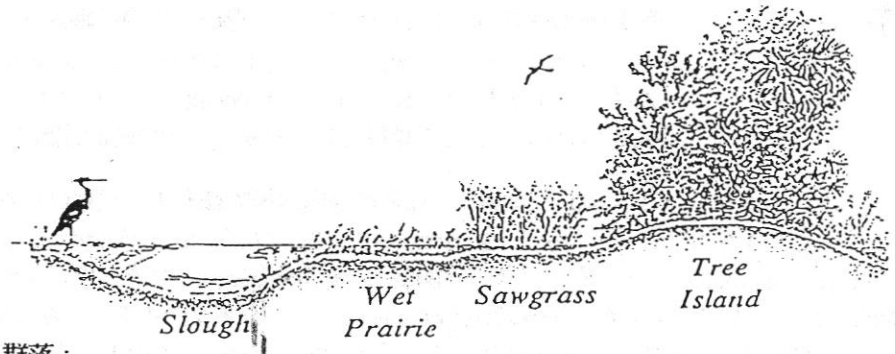
1) 泥沼： 四群落の中で最も水深があり、比較的広々としており、白水仙（*Nymphaea odorata*）等の水生植物が生育しています。

2) 湿地帯： 水深が浅く、スパイクラッシュ（*Eleocharis* spp.）ピークラッシュ（*Rynchospora* spp.）といった抽水植物が生育しています。

3) ヒトモトススキ（*Cladium jamaicense*）群落：

水深が最も浅く、様々な植物が密集しています。ヒトモトススキは場所によってシロヤマモモ（*Myrica cerifera*）やヤナギ（*Salix caroliniana*）等と混生しています。

4) 森林地帯： 年間を通じて殆んど水面上に位置しており、シロヤマモモ、レッドベイ（*Persea borbonia*）、ダフーンホリー（*Ilex cassine*）、シダ、アメリカヤマタマガマサ（*Cephalanthus occidentalis*）、イカコ（*Chrysobalanus icaco*）、そして所々にキャベツヤシ（*Sabal palmetto*）が生育しています。



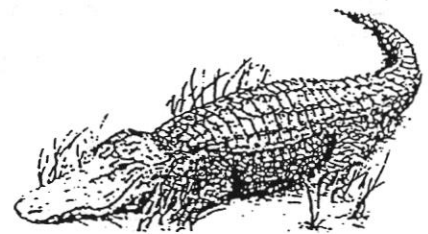
運河の堤防の外側に設置されているこの保護区域本部の敷地には400エーカーにも及ぶラクウショウ（*Taxodium distichum*）の底湿地帯と700エーカーの貯水沼があります。

アリゲーターと蛇

アリゲーターはビジターセンターの前にある池、マーシュ・トレールのある貯水沼、そして運河の水域で見ることができます。アリゲーターの長さは鼻先から目までの距離をインチで見積もり、その数字をそのままフィートに使用すれば予測できます。例えば鼻先から目までの距離が10インチなら、全長は10フィート。（1インチ=2.54センチメートル；1フィート=0.3048メートル）

！！鳥獣保護区域でアリゲーターその他の哺乳動物や鳥に餌をやったり脅かしたりすることは違法です！！

ラクウショウの底湿地帯に行くと数種類の無毒の蛇が泳いでいたり、草やシダの茂みに潜んでいるのを見かけることがあるかもしれません。ヌママムシ（*Aegistrodon piscivorus conanti*）、ヒシモンガラガラヘビ（*Crotalus adamanteus*）、ヒメガラガラヘビ（*Sistrurus miliarius barbouri*）、サングヘビ（*Micrurus fulvius fulvius*）といった毒蛇も棲息してはいますが、殆んど見かけることはありません。見かけても、そっとしておけば害を被る



といったことは殆んどありません。沼地や湿地帯で豚のような鳴き声を出しているのはピッグフロッグと呼ばれるカエル (*Rana grylio*) です。

鳥と哺乳動物

この保護区域ではスネイルカイトと呼ばれるトビ (*Rostrhamus sociabilis*)、カナダズルのフロリダ種 (*Grus canadensis*)、ウッドストークと呼ばれるコウノトリ (*Mycteria americana*) といった絶滅に瀕する鳥類を保護しています。オオハシカッコウ (*Crotophaga ani*)、ツルモドキ (*Aramus guarana*)、ショートテイルドホークと呼ばれるタカ (*Buteo brachyurus*)、スネイルカイト、ヘビウ (*Anhinga anhinga*)、フルバスホイッスリングダックと呼ばれるカモ (*Dendrocygna bicolor*)、モザイクカモ (*Anas fulvigula*) など北米でも最南端でしか棲息しない鳥もここロクサハッチーではよく見かけることができます。スネイルカイトやツルモドキがここで巣を造る理由の一つはこの鳥達の重要食糧であるフロリダアップルスネイルと呼ばれるカタツムリ (*Pomacea paludosa*) がこの保護区域に豊富だからです。



この保護区域の奥地はエバグレーズのエコシステムと馴染みの深い華麗な長脚の渉禽鳥類の巣造りの場所としての役目を果たしています。オオアオサギ (*Ardea herodias*)、ヒメアカクロサギ (*Egretta caerulea*)、サンショクサギ (*Egretta tricolor*)、アマサギ (*Bubulcus ibis*)、オオサギ (*Casmerodius albus*)、アメリカコサギ (*Egretta thula*)、シロトキ (*Eudocimus albus*) は年間を通じて見ることができます。水や食糧の量によって増減しますが、これらの渉禽鳥類は年間約3,000から7,500ぐらいのつがい形成しこの保護区域で巣造りをします。アメリカンビターン (*Botaurus lentiginosus*) リーストビターン (*Ixobrychus exilis*) と呼ばれる二種類のサンカノゴイ、ゴイサギ (*Nycticorax nycticorax*)、ササゴイ (*Butorides striatus*)、クイナ (*Rallus elegans*) もよくここで巣造りをします。その他約50種類の鳥がここで巣を造ります。

カタアカノスリ (*Buteo lineatus*) はこの保護区域で最もよく見かけられる猛禽です。又、冬場にはハイイロチュウヒ (*Circus cyaneus*)、チョウゲンボウ (*Falco sparverius*)、ミサゴ (*Pandion haliaetus*)、アカオノスリ (*Buteo jamaicensis*)、コチョウゲンボウ (*Falco columbarius*)、オオハイタカ (*Accipiter cooperii*)、アシボソハイタカ (*Accipiter striatus*) などもよく見かけられます。アメリカワシミミズク (*Bubo virginianus*)、アメリカフクロウ (*Strix varia*)、メンフクロウ (*Tyto alba*)、アメリカオオコノハズク (*Otus asio*) は一年中見られる留鳥です。小さな食肉鳥であるモズ (*Lanius ludovicianus*) もよく見かけられる留鳥です。



コメクイドリ (*Dolichonyx oryzivorus*)、チャイロツグミモドキ (*Toxostoma rufum*)、タイランチョウ (*Tyrannus tyrannus*)、アメリカムシクイ科のイエロー・ウォーブラー (*dendroica petechia*) とブラック・スローテッド・ブルー・ウォーブラー (*Dendroica caerulescens*) といった美声の渡り鳥が移住の途中に立ち寄ります。冬場には沢山のアメリカムシクイ科のボーム・ウォーブラー (*Dendroica palmarum*) そしてキツバメ (*Tachycineta bicolor*) が訪問し、ゴシキノジコ (*Passerina ciris*) もよく見かけることができます。又、奥地の沼地はクビワキンクロ (*Aythya collaris*)、ミカズキシマアジ (*Anas disors*) といったガンカモ類の鳥達の避寒地ともなります。

この保護区域ではオジロジカ (*Odocoileus virginianus*)、尻尾の丸いマスクラット (*Neofiber alleni*)、カワウソ (*Lutra canadensis*)、ボブキャット (*Lynx rufus*) といった哺乳動物も見られます。

＊ ＊ 尚、ビジターセンターのデスクにはこの保護区域で見られる鳥のリストがございますのでどうぞお尋ね下さい ＊ ＊

